

Profiles of EQ-5D utility scores in the daily practice of Japanese patients with rheumatoid arthritis; Analysis of the IORRA database

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星, 大介 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032142

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2920 号	氏 名	星 大介
審 査 委 員 会	主 査 教 授	内 潟 安子	
論文審査の要旨（400 字以内） 関節リウマチ（RA）治療の進歩に伴い、薬剤費が高額になり医療経済学的な問題が急速に注目されている。しかし、日本人 RA 患者において十分な検討がされていない。著者らは RA 患者大規模コホートをを用い、薬剤の費用対効果指標：EQ-5D スコアを検討した。 多変量解析にて、年齢、罹病期間、J-HAQ、疼痛関節数、疼痛 visual analog scale（VAS）、全般 VAS、医師評価 VAS、入院回数、合併症数が、EQ-5D スコアと有意に関連した。ANOVA 検定で EQ-5D スコアに強く影響したのは、日本語版健康関連質問票（J-HAQ）、次いで疼痛 VAS、女性、関節手術歴だった。日常診療における日本人 RA 患者の EQ-5D スコアを初めて明らかにした。本研究は今後の RA 治療における医療経済学的分野において基礎となるデータを示した点において、極めて重要な研究である。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）【学校教育法学位規則第 8 条】			